

## 「第76回 小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会」の報告

➤開催日時：令和5年11月8日（水）14時00分～15時30分

➤出席人数：会場12人（欠席7人） 傍聴：1人

### 1 「（仮称）小平市の地域公共交通の基本方針」素案（たたき台）について（報告）

資料1について公共交通課から説明

- ・1ページで、基本方針策定の背景として、平成18年にまとめた「市の公共交通に対する基本的な考え方」に基づき取組を進めてきたが、既に15年以上が経過し、社会状況や公共交通を取り巻く環境が大きく変化していることから、見直しが必要となっていることを明記している。
- ・本基本方針では、地域との協働により、快適で利用しやすい地域公共交通ネットワークの維持・強化が図られ、誰もが安全・安心にまちの中へ出ていくことができる姿、「地域で支え未来へつなぐ地域公共交通」を目指している。
- ・2、3ページで、基本的な考え方に基づくこれまでの取組の総括及び市民の意識・実態調査の集計結果等を踏まえ、市内における地域公共交通の課題を5つに整理し、目指すべき姿の実現に向けた基本となる2つの柱と5つの考え方を示している。
- ・4～6ページで、実現に向けた考え方を基本に、3つの方針とその方針の実現に向けた6つの目標を定め、それに基づく取組の方向性を示している。
- ・南西部地域に関連する部分は、4ページの、「方針1 地域の特性・実情・ニーズに即した地域公共交通」において、「目標2 きめ細かい交通手段の検討への支援」の「取組①きめ細かい交通手段の検討への支援」で、交通が不便な地域におけるデマンド型交通の研究・検討など、交通課題の解決に向けた地域の主体的な活動への支援について明記している。

また、「方針2 将来を見据えた持続可能な地域公共交通」では、「目標1 地域で支える地域公共交通」の「取組① 地域との協働・連携による利用促進活動の実施」として、考える会等との協働により、利用促進活動に取り組んでいくことについて明記している。

#### 質疑

- ・「方針1 目標2 取組①」の、グリーンスローモビリティとは。  
→（公共交通課）時速20キロメートル未満で公道を走ることができる電動自動車のことで、第2種運転免許を持っていなくても、講習を受ければ運転可能な新たな交通手段のことである。環境にやさしく、NPOや自治会が運行主体となっている事例がある。近隣では、三鷹市の井の頭地域や、豊島区の池袋で実証実験運行を行っている。
- ・最近話題になっているライドシェアについてはどうか。労働等に課題もあるが、乗務員不足の現状において、検討すべき項目として入れる考えは。  
→（公共交通課）過疎地域で事例はあるものの、安全性など課題も多く、制度化もされていないので、現時点で方針に盛り込むことは難しい。国でも検討が進んでいるが、今後の動きを注視し、状況に応じて方針を見直しする際に、検討する可能性はある。

- ・山間部の過疎地で成功している事例はあるが、ライドシェアだけで乗務員不足が解消できる訳ではない。事故を起こした時や労働環境への対応など課題も多い。事例は都市部とは状況が大きく違う。

(座長) ライドシェアについては、今後、意識して情報収集をしておいた方が良いと考える。

- ・「6実現に向けた考え方」において、平成18年にまとめた「市の公共交通に対する基本的な考え方」では、実現のための具体的な取組が示されているのに、今回の考えに当たる矢印の下部には、抽象的な表現で、具体的な取組が示されていないのでは。

→ (公共交通課) 実現に向けた考え方を元に、4ページ以降の方針の中で、具体的な取組を示している。コミュニティバスやコミュニティタクシーに関しては、運行を維持するための取組の方向性として、方針1目標1取組①②において、時刻表、運行ルート、停留所の見直しについて示している。

## 2 デマンド型交通に係る市の調整内容について (報告)

資料2について公共交通課から説明

- ・デマンド型交通の運行目的は、コンパクトな地域内の生活交通の充実を図り、最寄り駅へのアクセスや買い物、通院など、市民の生活交通を確保するためである。
- ・実証実験運行の実施理由は、利用状況や運行経費などのデータを把握することで、運行目的の達成状況や運行による効果を分析・検証し、生活交通としての適性を見極めるためである。
- ・実証実験運行期間は、令和6年6月上旬から令和7年5月下旬までの、12か月程度。
- ・運行エリアは、上水本町エリアと、鷹の台駅西側エリアの二つのエリア。
- ・対象者は、制限しない。
- ・運行方法は、運行エリア内の指定の乗降場所間を運行する。
- ・乗降場所は、駅・バス停・公共施設・病院・買い物先等で、上水本町エリアの約40か所と、鷹の台駅西側エリアの約60か所を候補として挙げているが、今後警察との調整・実査をする中で精査していく。
- ・運行曜日は月曜日～金曜日で、エリア別に運行曜日を分け、運行時間は8時30分～18時で、12時台は運行しない時間として想定している。
- ・運賃は300円～400円の範囲内で、今後、予約・配車システムに係る経費を考慮した上で決定する。
- ・車両は、専用のワンボックス車を1台で運行する。
- ・予約方法は、スマートフォンアプリの他、電話でも予約できるようにする。
- ・持続可能な地域公共交通とするため、引き続き、皆さんと共通認識を図りながら、継続的な運行へ移行するための利用者数や市の補助金額等の判断基準について検討していく。

### 質疑

- ・年末の自治会の集まりでデマンド型交通の実証実験運行を行うことについて、話して良いか。  
→ (公共交通課) 実証実験運行は確定ではないが、実施に向けて準備を進めていることは周知しても構わない。

(座長) 共有したいことは、来年6月を目途に準備を進めていることや実施期間である。

- ・予約の受付は電話も可能となるよう調整しているのか。  
→ (公共交通課) スマートフォンアプリだけでなく、電話での受付方法も調整していく。

### 3 デマンド型交通の実証実験運行に向けた準備について（検討）

#### （1）デマンド型交通の愛称

（座長） 現在、デマンド型交通には、コミュニティタクシーにおける「ぶるべー号」のような愛称がないので、親しみやすくするためにも、愛称はあった方が良く考える。

- ・ 車両については、コミュニティタクシーの実証実験運行した時と、同様の車種か。  
→（公共交通課）ワンボックス車両を想定しており、車体にステッカーで、愛称や運賃等を案内することを考えている。

（座長） 考える会で検討するのはどうか。

- ・ 市報や市のホームページで公募してはどうか。知ってもらいきっかけになると考える。色々な意見も出るのではないか。
- ・ 「デマンド」という言葉は難しいので、広く意見をもらうのは良いと考える。

（座長） 公募して集まった候補について、考える会で選考するのかどうか。

- ・ パブリックコメントと合わせて、募集してはどうか。PRになると考える。  
→（公共交通課）基本方針のパブリックコメントと合わせて、市報に掲載することは難しいが、市ホームページで募集することは可能である。
  - ・ チラシ配布によって、実証実験運行の周知と愛称の募集をしてはどうか。
  - ・ 募集の方法については、1から全て考えてもらうのか、それとも考える会で幾つか候補を考えて、それを例示して考えてもらうのか。  
→（公共交通課）広く募集した中で、市が候補を幾つかに絞り、考える会で選考する方法もある。
  - ・ 「デマンド型交通」というのはイメージがつきにくいので、1から考えるのは難しいのでは。  
→（公共交通課）募集の際に、「デマンド型交通」とはこういうものという説明を明記する必要があると考えている。
  - ・ 幾つか候補を例示した方が、イメージがついて、考えやすくなるのでは。
  - ・ 市報や市ホームページは、若い方も見るので、考えてくれるのでは。
  - ・ デマンドの説明ではなく、コミュニティタクシーが別の方法で運行するといった表現の方が良いと考える。実証実験運行して1度はなくなったが、戻ってくるという方がインパクトがあるのでは。皆に親しんでもらう愛称を付けることは良い。
  - ・ コミュニティタクシーは高齢者の利用が多いので、代替りの交通手段としてのデマンド型交通について、若者から意見をもらうのは期待できないのでは。
  - ・ 愛称募集に対して、若者も反応するのではないか。若者の意見を取り入れ、良い愛称をつけてもらえれば良い。
  - ・ デマンド型交通の対象者は絞っていないので、皆に乗ってもらえる愛称が良い。
- （座長） 募集の際は、イメージしやすいように説明を工夫することが重要である。
- ・ 市報や市ホームページ以外の募集の方法は。  
→（公共交通課）市報や市ホームページだけでなく、ライン、SNSを活用することで、幅広い年齢層の方に情報を届けることができる。公民館などの公共施設にQRコード付きのポスターを掲示して、市ホームページから応募してもらう方法も考えられる。
  - ・ イメージがつきやすいように、まずは考える会で愛称を考え、幾つか案が出れば募集の際に例示して募集することでどうか。

- ・愛称決定までの想定スケジュールは。  
→（公共交通課）公募する場合は、例えば12月下旬から1か月位を募集期間として、候補の中から考える会で決め、評価については、座長と調整することでどうか。  
（全員）了承する。

## （２）周知・PR方法

（座長）実証実験の実施に向けた周知・PR方法として、一般的に市報や市ホームページ、チラシ、公共施設へのポスターの掲示などが考えられるが、方法について意見はあるか。

- ・自治会の総会に職員が出席して、説明してもらうことは可能か。  
→（公共交通課）地域の集まりに出向いて説明することは可能なので、総会の日程などは決まり次第、早めに教えてほしい。自治会に入っていない方もいるので、地域説明会についても検討する必要があると考えている。
- ・無料の交通検索アプリとの連携について、検討してはどうか。目的地を検索して、そこからデマンド型交通の予約ができれば便利で、若者も利用するのではないか。このことは、方針3目標1取組③の「多様な交通手段の連携・活用」にデマンド型交通を組み入れることにならないか。  
→（公共交通課）アプリの仕組みを研究し、交通検索アプリとの連携についてコンサルタント事業者と検討していく。
- ・コンサルタント事業者は決まったのか。  
→（公共交通課）10月中旬に決まり、現在、予約・配車システムについての情報収集が始まった。
- ・市ホームページから予約・配車システムのアプリがダウンロードできるようにするのか。  
→（公共交通課）市ホームページに、リンクを貼ることを考えている。
- ・コンサルタント事業者の役割は。  
→（公共交通課）小平市の運行システムの条件に合うシステムか、他市で実績があるかなどを情報収集し、予約・配車システムの選定の支援をする。運行事業者等と調整を図りながら、1月中旬に2、3社に絞り、最終的には運行事業者が市の予算の範囲内で選定する予定である。2、3社に絞った予約・配車システムについては、考える会の皆様にも実際に見てもらいたいと考えている。

## 4 その他

### （１）市からの情報提供

- ・令和4年度決算特別委員会について報告  
デマンド型交通や小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会での検討状況などについて質問があった。

### （２）参加団体からの情報提供

- ・参加団体の新規追加について（提案）  
これまで、傍聴として「南西部地域にじバス・コミタクを走らせる会（上水本町地域）」の会員が参加していたが、上水本町エリアは自治会1団体のみ参加だったため、正式に参加団体として考える会に入れてはどうか。  
→全員一致で了承

**【今後の予定】**

**第77回 令和5年12月13日（水）14時～ 小川公民館 ホール**

**※会議後の修正内容について**

今回の会議（11月）で検討していただきました愛称募集について、庁内で検討した結果、募集の時期を先送りにすることとなりました。

市としては、コミュニティタクシー「ぶるべー号」と同様に、実証実験運行後の本運行へ移行した後に、愛称を付けていきたいと考えています。

つきましては、今後、実証実験後に本運行（継続運行）へ移行した際に、改めて募集方法等について検討していただき、次回（12月13日）では、愛称ではなく、「コミュニティタクシー」や「乗合交通」など、分かりやすい名称の検討を予定していますので、よろしくお願ひします。